

平成24年2月16日 荻窪中学校学校運営協議会発行

■ 2期目を迎えるにあたって

■ 会長 徳田 達介

平成21年10月1日にスタートした荻窪中学校学校運営協議会は2期目(1期は2年間です)に入りました。石川委員、荒木委員の両委員が1期で勇退され、2期目から猪鼻、石井の両氏が委員に就任されました。よろしく願います。

学校運営協議会をコミュニティ・スクールの略でC.Sとも言います。1期目は先進校の視察などC.Sについて毎月1回の開催で学習してきました。基本にあるのは学校を知り、荻窪中学校の地域応援団になることです。1期目の2年間でC.Sの目指すところに向かって進んで行く方向が見えてきました。

C.Sの開催は校長や委員の都合の良い日を選び、毎月1回、夕方(5時)から開催されます。原則は公開です。ぜひおかけください。開催日については、事務局(池谷副校長)にお尋ねください。

■ 校長 小松崎 浩

荻窪中学校がC.Sとしてスタートし、2年の月日が流れました。9月をもって退任された石川委員、荒木委員のお二人には、C.Sとしての礎を築いていただき、誠にありがとうございました。心から感謝申しあげます。また、新しく委員に加わっていただいた、猪鼻委員、石井委員のお二人には、新しい地域の風を吹き込んでいただきたく思っています。どうぞよろしく願います。

平成24年度からは、新しい学習指導要領も完全実施され、荻窪中学校もいろいろな意味で変革の時を迎えています。「地域と共に夢をはぐくみ、地域と共に成長していく学校」を創造するためには、地域の皆様のお力が必要です。C.Sも3年目、第2期を迎えますが、さらにその必要性は高くなっていきます。どうぞよろしく願います。

学校の横を流れる善福寺川の清流と共に、荻窪中学校の教育の清らかな流れを絶やさぬよう、C.Sとしての活動を続けていく思です。「ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず」と古人が述べているように……。

■ 新委員の紹介

■ 猪鼻 徳壽

西荻窪生まれ西荻窪育ち

井荻小学校、荻窪中学校、都立荻窪高校、明治大学商学部卒業後に父親の経営しております伊勢屋美術に入り、いつの間にやら40年の歳月が過ぎてしまいました。

約35年程前より商店会活動に従事、西荻窪のイベント「ハロー西荻」の立ち上げに参加し、「六童子」「六地藏」を設置など。現在は西荻窪商店会連合会会長として活動しております。荻中という青春の船の乗組員としてお手伝いできたらと考えております。

■ 石井 喜文

やはり猪鼻先輩と同じく
生粋の「西荻っ子、です♪

我が母校荻窪中学をもっと
元気に！そしてもっと夢ある
学校にしたい！素直でステキな中学生と素晴らしい先生方と手と手をつなぎ、地域に愛されなくてはならない魅力ある学校へと築きあげていけたらいいな…なんて考えております。
なによりも大切なのは「荻中愛」！
ガンバります。

活動報告

学芸発表会に参加して

力強い校歌の全校合唱で始まった合唱コンクールは、各学年・クラスとも練習の成果を余すところなく発揮した素晴らしいものでした。私は時間の都合で1・2年生のみを鑑賞させていただきましたが、1年生はクラスの人数が少ないにもかかわらず、だからこそなのか皆が大きな声で、本当に立派に歌い上げ、もう今から三年後が楽しみです。2年生は大舞台2回目の余裕も感じられる歌声を披露してくれました。クラスの団結力と先生方の熱心なご指導の成果が感じられた学芸発表会。来年はぜひとも地域の皆様にもご鑑賞いただきたいと思います。(清水)

施設点検報告

9月28日(水)、学校施設・設備の安全点検を実施しました。各教室を含めた校舎内、校庭等を視察し、安全面や利便性を考慮して改善した箇所、また現在問題になっている箇所についての説明を校長から伺いました。その後の協議会で討議し、早急に改善した方が良いものについては「平成24年度要望書」として行政に提出いたしました。施設点検については保護者や地域の方からの意見等も参考にしながら今後も実施していく予定です。(高橋)

研修報告

「地域とともにある学校づくり(横浜会場)」

11月17日(木)、地域とともにある学校づくり推進協議会(横浜会場)に3名参加しました。

■「地域とともにある学校」がめざす学校像
学校と地域の人々(保護者・地域・住民等)が目標を共有し、一体となって地域の子どもたちをはぐくんでいくことは、子どもの豊かな育ちを確保するとともに、そこに関わる大人たちの成長も促し、ひいては地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てて行くことに繋がる⇒学校、家庭、地域に好循環を生む。

■上記の実現のために求められていること。

①熟議(熟慮と議論)

学校と地域の人々が、みんなでよく考え話し合っていくこと。

②協働

同じ目標に向かって一緒に活動すること。

③学校のマネージメント

校長を中心に人をつなぎ、学校の組織としての力を上手く引き出すこと。

■コミュニティ・スクールは地域とともにある学校づくりを進める上での有効なツールとして期待されています。(金子)

退任委員よりひとこと

退任のごあいさつ 荒木 淳

この度、2年の任期が終わり退任させていただきました。在任中は、学校はじめ地域の皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。創立以来お世話になっております土曜学校、今回の委員を通じまして感じましたことは、この地域には、多数の優秀な卒業生、また、この方々を通じて学校を支えてきた地域の方々がいらっしゃるということです。どうかこれからも、荻中のもっている強く活力ある校風を、新しく変わっていく時代に伝え行くことにお力添えいただくことをお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

追憶 石川 寛

今から25年前、奈良京都方面への修学旅行で生徒を引率して行った時のことである。「先生の所の生徒はんはマナーがよくて友達同士が仲良し、しかも不自由な生徒はんたちの面倒をよく見はる。とても優しい良い生徒はんちどすな。」と真剣な眼で語ってくれた旅館の女将の言葉である。その顔は営業上の単なる社交挨拶ではなく真摯な言葉であることがはっきり察知できた。とても嬉しかった。教師の冥利に尽きる思いで一杯であった。そのことが今も印象深く未だに残っている。

さて、それでは女将の目に映った生徒たちの姿とは何であったのだろう。教師が平素から情熱を傾注して指導してくれたその成果の表れであると思うのだが、待てよ、そればかりではないぞと、反すうしてみた。ここに至るまでのいろいろな道のりや、糧を忘れてはならないだろう。つまり、当然ながら幼少から育てはぐんできた親、そして幼、小、中学校の教師の直向きな指導、さらに恵まれた地域の教育環境、それ等が複合的にうまく融合しあってできあがったものに違いないと。これが荻中のよき伝統として今日に繋がっているものだと思う。どの機能もうまく噛み合っていないとよい結果は生じないが、その点荻中是非常に恵まれていると思う。よい伝統は放棄しないでいつまでも大切に継続してもらいたい。